

東日本大震災

5年前の記録と記憶

身の危険を感じた数分間

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の地震が発生しました。

『東北地方太平洋沖地震』と名付けられたこの地震は、津波などの被害も含めた大規模災害『東日本大震災』として、わが国に大きな爪痕を残しました。

登別では震度3を記録した揺れでしたが、過去に発生した地震と比べても長く、これまで経験した地震と何か違う、と身の危険を感じた方も多かったのではないのでしょうか。

国全体での被害状況

総務省消防庁のデータ（平成27年9月1日現在）によると、東日本大震災により亡くなった方は、東北地方を中心に1万9千335人、行方不明者2千600人、負傷者6千219人です。

この人数を登別市の人口で考えると、市民の4割以上の方が亡くなった、または行方不明となったこととなります。それだけの多くの方がほ

ぼ一斉に居なくなつたと考えると、改めて大きな災害だったことがわかります。

また、住居被害は、全壊が12万4千690棟、半壊が27万5千118棟、一部破損が76万4千843棟などと、こちらも甚大な被害を記録しています。

では、登別市は、どのような被害を受けたのでしょうか。

登別市における東日本大震災当日を、市が執った対応と併せて、時系列順に振り返ります。

登別市の対応と被害状況

登別市では当日15時30分、気象庁の『津波警報（大津波）』の発表を受け、災害対策本部を設置。市内8カ所に避難所を開設（鉄南ふれあいセンター、市民会館、婦人センター、鷺別公民館、富岸小学校、幌別中学校、青葉小学校、緑陽中学校）するとともに、道道登別港線の通行止めに合わせて市道蘭法華通りを通行止めにしました。

次いで15時35分、市内海岸線の2千653世帯、5千392人に対し『避難指示』を発令し、サイレン遠隔吹鳴装

置や市ホームページ、広報車などで、対象者へ避難を呼び掛けました。

16時10分、鷺別漁港において、50センチの津波が目視で確認されました。幸い、この津波による被害はありませんでした。

市内8カ所に開設した避難所にも市民が続々と詰めかけ、18時40分時点でピークに達し、合計1千470人の市民が避難をしました。

23時20分、登別漁港において、1メートルの津波が目視により確認されました。この津波は同港の岸壁を越える大きなもので、港内に停泊していた漁船と漁港施設が被害を受けました。

防災意識の変化

東日本大震災は、国民の意識に大

きな影響を与えました。

国土交通省が、平成24年1月から2月にかけて実施した意識調査で、『東日本大震災後の考え方の変化』という設問に対し『防災意識の高まり』との回答が52・0％で最多（全国20歳以上の男女4千人からの回答）となっています。

市民の皆さんも、ご家族で非常時の集合先や連絡先などを確認しあうなど、防災についてあらためて考え、関心を深めた方も多いのではないのでしょうか。

市や町内会などでは、さまざまな機会を通じ、防災訓練や防災研修会などを行っています。皆さんも、今一度防災についての思いを新たに、これらの防災訓練などに参加して、いざというときに備えませんか。

登別漁港の被害状況

- 漁船被害
 - ・ 転覆1隻
 - ・ 浸水2隻
 - ・ 漂流1隻
- 漁港施設被害
 - ・ 活魚水槽施設のシャッター破損、電気設備故障
 - ・ 旧荷捌所シャッター破損
 - ・ 新荷捌所電動フォークリフト故障
 - ・ 魚箱などの港内や沖への漂流
 - ・ 廃油庫、簡易トイレ横転
 - ・ バリケードなど破損



▲被害を受けた漁船